

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	安心して表現できる人間関係づくり、環境づくり
【学校、学年】	小学校 【 1 】年(複式学級のため1・2年)
【状況、様子 等】	<p>○児童Fの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園時、人前で話すことや不慣れな場が苦手で、発表の場面だけでなく、普段から本児の声や発言を聞くことがほとんどない状況だった。 ・そうした実態を踏まえ、地域の療育相談員の巡回相談を幼稚園時に受けたことがあった。 ・園からの引継や保護者の話から、本児の実態や入学にあたり大きな環境の変化を伴うことを踏まえると、前述した幼稚園時と同様の状況が考えられると学校側は想定していた。 ・入学後、動きのぎこちなさや内股歩行が目立つことに気付いた。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校という場所が楽しく安心して過ごすことができる場所だと本児が感じられるよう、教師や支援員等との信頼関係を丁寧に築くようにした。(支援) ・発表することが難しい場合は、教師と一緒に言うこと、本児が書いたものを教師が読む等の選択肢を提示し、本児が選ぶことができるようにした。(合理的配慮) ・声が聞き取りにくい場合やもう一度言ってほしいときは、必ず励ましの言葉を伝えた上で、教師が手本を見せたり、キーワードを用いてどのように発表すると良いのか伝えたりした。そうすることで、本児がもう一度やってみようとする前向きな気持ちになれるようにした。(支援) ・授業では、「見て分かる」「〇〇すればできる」のように見通しをもてるような学習活動を設定し、できた、分かったと本児が実感できるようにした。(支援) ・児童らの言動を肯定的に受け止め、ポジティブな言葉やリアクションを返すことで一人一人の自己肯定感を高め、自信をもってありのままに表現できる学級の土台を大切にした。(学級経営) ・明るく、朗らかな学級の雰囲気の中で、友達と関わり合う場面や、言葉でやりとりする場面を作るようにした。(学級経営) ・体育では、サーキットトレーニング等を授業の導入で行い、粗大運動を高める内容に学級全体で取り組んだ。(支援)
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後、心配されていた様子はほぼ見られず、友達や教師と話をしたり、授業や集会の場面で自分から発表したりする姿が日常的に見られるようになった。 ・教師や友達からの温かい反応や肯定的な言葉かけが自信につながり、安心して自分を表現することが増えた。 ・言葉でのやりとりが見られるようになったことで、これまで気付かなかった発音の不明瞭さがあることが分かり、保護者と相談しながら外部専門機関等との連携を検討するようになった。 ・本児が友達をサポートしたり、主体的に関わったりする姿が増え、互いに支え合う友達との関係が深まってきた。 ・歩行に関しては、徒歩での登下校によって随分解消されてきた。